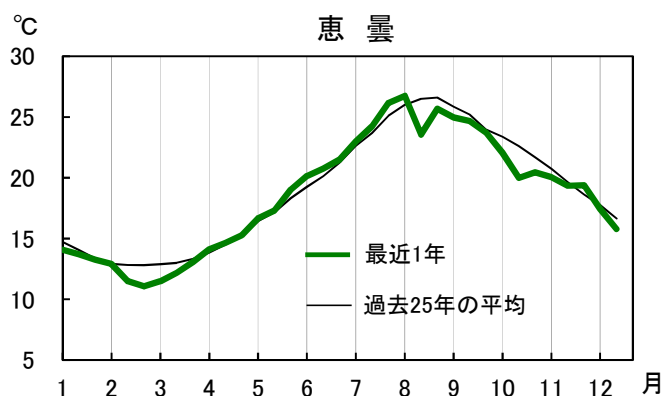
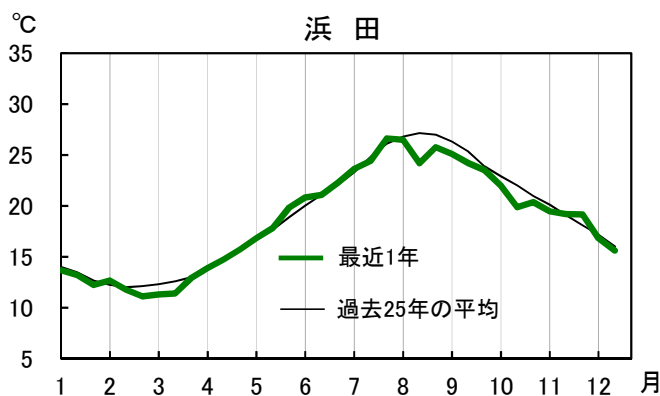


《11～12月の海況》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	19.3℃	+0.2℃	平年並み
恵曇	19.6℃	-0.1℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田・恵曇地区とも11月は「やや低め」であった上旬から、中旬は「平年並み」、下旬は「かなり高め」と大きく変動しました。12月に入り、両地区とも上旬は「平年並み」でしたが、中旬になり浜田地区では「平年並み」、恵曇地区では「やや低め」で経過しています。



《11月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類、ソウダガツオ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を上回りました。マアジは平年の8割でしたが、サバ類は平年の2倍、ソウダガツオ類は17倍の漁獲がありました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、ブリ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。マアジ、ブリ、サバ類はそれぞれの地区で0.9～3倍と平年並みか平年を上回りましたが、昨年大漁であったマイワシが全く漁獲されなかったため、結果として平年を下回る結果となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ（全体の78%）を主体にスルメイカ（同16%）、アオリイカ（同5%）・ソデイカ（同1%未満）・ヤリイカ（同1%未満）が混じる漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は52kgで平年を下回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではソデイカ（全体の100%）のみの漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は66kgで平年を下回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ、キダイ主体の漁況で、1統1航海当たり漁獲量は平年を9%上回りました。ムシガレイ、ソウハチは漁がまとまり、平年を7～18%上回り、またキダイも前月に引き続き好調に推移し、平年の1.9倍の水揚げがありました。一方、ケンサキイカは平年の2割、アナゴ類、アンコウも平年の8～9割の水揚げに留まりました。

【小型底びき網漁業】

和江、久手両地区ともにマダラ主体の漁況でした。1隻1航海当たりの漁獲量は、和江地区では平年を22%上回り、久手地区では平年を10%下回りました。両地区ともマダラが好調であり、平年の1.6～1.9倍の水揚げがありました。和江地区では、ニギスが平年の1.4倍の水揚げとなりましたが、ソウハチ、アンコウ、ムシガレイは平年の7～8割の水揚げに留まりました。久手地区では、ソウハチ、アナゴ類は平年並みでしたが、アンコウ、ニギスは平年の6～8割の水揚げに留まりました。このほか、両地区ともヤリイカがまとまり、平年の2.6～3.7倍の水揚げがありました。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の1.8倍だったものの、サバ類が6割、ブリが3割、カワハギ類等の魚種が平年並みか平年を下回ったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではマアジ、ブリ、サバ類主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の2倍だったものの、例年主体となるケンサキイカが1割以下だったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。隠岐地区ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統当りではマアジ、サバ類がそれぞれ平年の2倍、6倍だったものの、例年主体となるカワハギ類が2割だったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。

【釣・縄】

出雲地区ではブリ、サワラ類、マダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は20kgで平年を下回りました。石見地区ではブリ、その他のハタ類（クエ主体）、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は17kgで平年を下回りました。隠岐地区ではブリ、ソデイカ、マダイ、クロマグロ（ヨコワ）が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は19kgで平年を下回りました。

【平成 26 年 11 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類、ソウダガツオ	751トン	353%	135%	22.1トン	145%	99%	○
	西郷	マアジ、ブリ、サバ類	6,439トン	80%	92%	77.6トン	47%	75%	▲
	浦郷	マアジ、ブリ、サバ類	3,414トン	120%	111%	54.2トン	67%	77%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	14トン	103%	18%	52kg	61%	31%	▲
	西郷	ソデイカ	1トン	4%	8%	66kg	8%	25%	▲
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ、キダイ	297トン	91%	89%	15.6トン	110%	109%	◎
小型 底びき網	久手	マダラ	173トン	151%	89%	817kg	90%	94%	▲
	和江	マダラ	302トン	179%	98%	878kg	122%	97%	○
定置網 (大型)	浜田	サバ類	33トン	—	151%	2.3トン	—	258%	◎
	美保関	マアジ、サバ類、カマス	143トン	88%	105%	1.5トン	82%	100%	○
	浦郷	ウルメイワシ、ブリ	26.9トン	190%	178%	1.1トン	205%	176%	◎
釣り・縄	仁摩	ヒラマサ、ケンサキイカ、マダイ	5トン	36%	16%	20kg	41%	33%	▲
	大社	ブリ	12トン	100%	58%	27kg	57%	51%	▲
	西郷	ソデイカ、クロマグロ(ヨコワ)	7トン	131%	49%	19kg	74%	61%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成26年12月24日

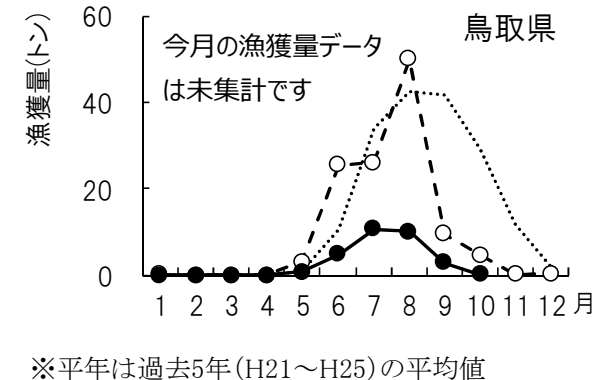
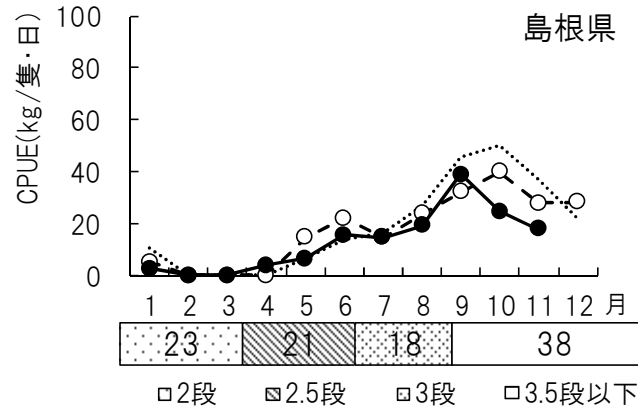
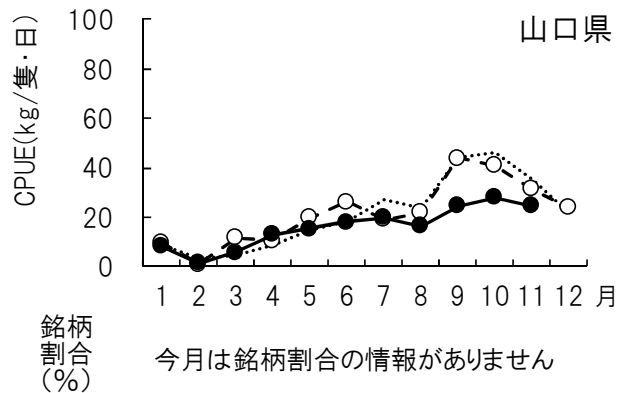
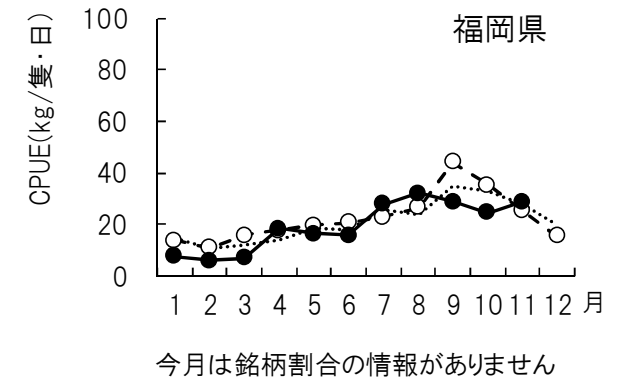
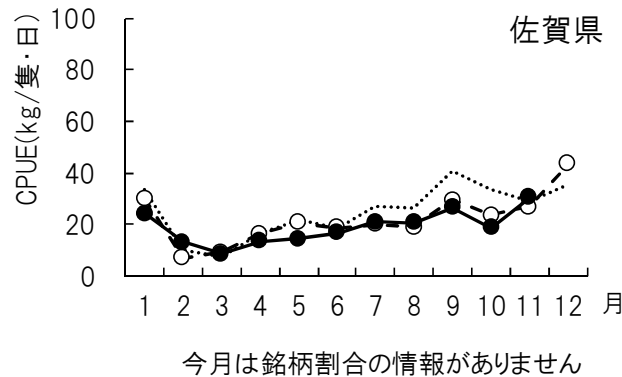
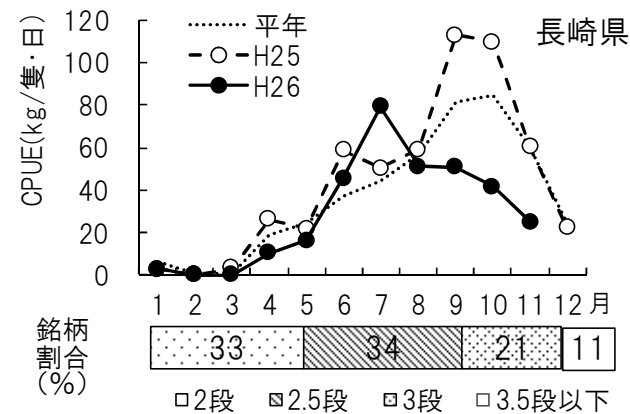
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。
 来月からはケンサキイカ情報の発行はお休みします。再開は平成27年5月を予定しています。

I：11月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

漁獲量でみると、**平年並みであった佐賀県と福岡県以外の各県では低調に推移したようです。**

長崎県	11月の漁獲量は前年・平年を大きく下回りました(前年比48%、平年比30%)。	佐賀県	標本港の漁獲量は前年を上回り、平年並みでした(前年比163%、平年比98%)。	福岡県	代表港の11月のCPUEは平年並、漁獲量は前年比168%、平年比102%と平年並みでした。また1～11月の累積漁獲量は前年比82%、平年比77%と10月に引き続き低調に推移しています。
山口県	代表港の漁獲量は前年・平年を大きく下回りました(前年比54%、平年比24.6%)。	島根県	主要7港の水揚量は21トンで、前年・平年を下回りました(前年比76%、平年比13%)。	鳥取県	11月の漁獲量は集計中ですが、10月までの漁獲量は前年及び平年の値を大きく下回りました(前年比25%、平年比19%)。



Ⅱ:12月上旬の底層水温

長崎県	五島西沖の底層水温は17-18℃台で推移しました。	佐賀県	沿岸域の底層水温は16~18℃台でかなり低めからやや低め、沖合域では16~18℃台で平年並みからやや高めとなっています。	福岡県	沿岸域は15~18℃台でかなり低めから平年並み、沖合域は17~18℃台でやや低めから平年並みとなっています。
山口県	川尻岬北西沖の底層水温は、15~18℃台を示し、平年並みからやや高めでした。	島根県	水深200m以浅では、温泉津沖は2~6℃で、「やや低め~かなり低め」でした。高山沖は2~20℃で、沿岸寄り「やや高め」、沖合よりは「やや低め~はなはだ低め」でした。	鳥取県	先月に引き続き隠岐諸島周辺海域及び鳥取県沿岸域の水深100mの海域の水温は16℃前後でした。先月同様、隠岐諸島北西海域で島根沖冷水の張りだしが強い傾向にあります。

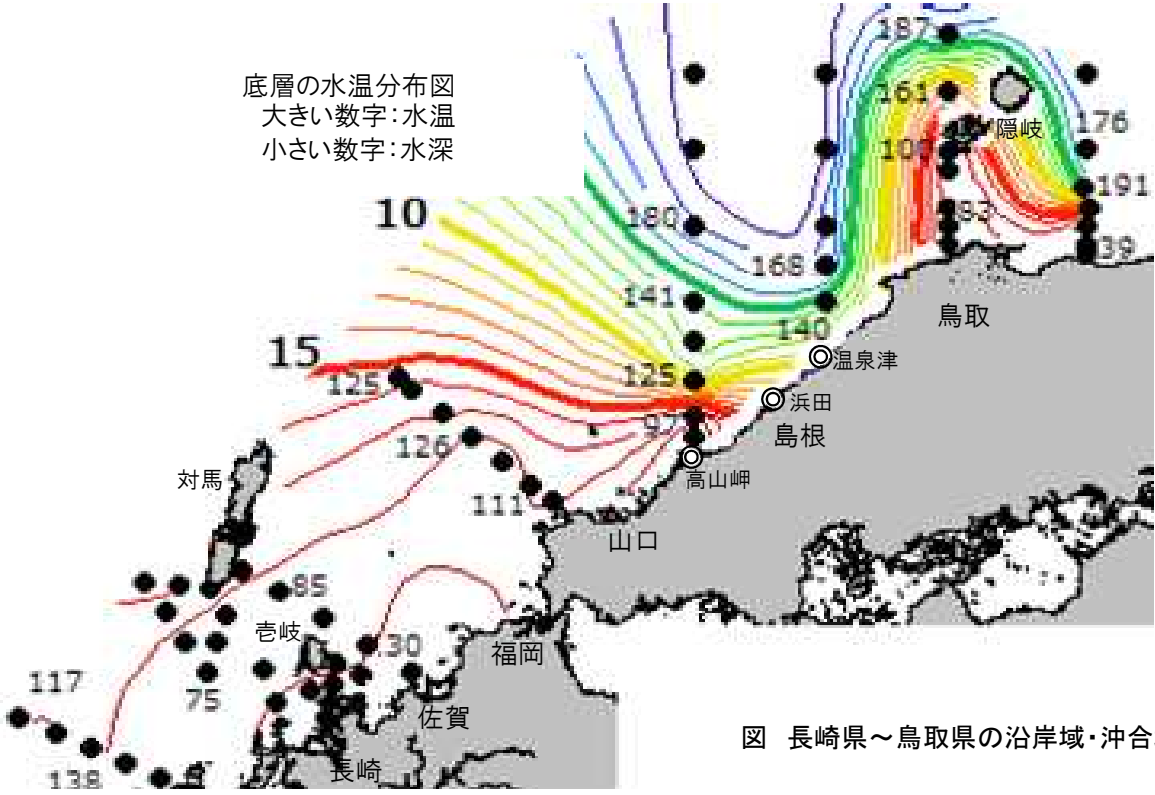


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図